鹿野地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年８月２９日（金）　１９：００～２０：１０
２　会　場　鹿野町中央公民館
３　出席者　地元出席者　　２８名
市側出席者　　１７名
深澤市長、羽場副市長、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、大田経済観光部長、尾室総務調整監、久野新市域振興監、神谷教育委員会事務局次長、高橋秘書課長
＜鹿野町総合支所＞中川支所長、竹間副支所長、上野市民福祉課長、乾産業建設課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　地域の重要課題について

１　若者定住対策について

＜地域課題＞

① 企業誘致と情報環境整備について

鹿野地域では企業が減少し、ほとんどの住民が鳥取市内に勤務している。通勤時、特に冬期の道路状況等により、勤務場所に近い所に住居を構えるケースが多く見られ、地域から若者が減少しているとともに子どもの減少に拍車をかけている。

鳥取市の均衡ある発展のためにも、新市域全体への企業誘致も積極的に進めていただきたい。

また、若者の定住及び企業が進出する条件の一つに情報環境があると思うが、企業誘致を図るためにも光ケーブルの未整備区域の解消に努力していただきたい。

② 校区再編について

鹿野地域では、将来の学校の在り方について鹿野町の考え方をまとめるために、本年５月に「鹿野地域の教育を考える会」を立ち上げ、現在、将来学校がどうあるべきと考えるか町民アンケートを実施中であり、年度末までには鹿野町の意見を取りまとめる予定である。

ついては、校区再編にあたっては鹿野町でとりまとめた意見を最大限尊重し、鹿野地域の教育振興にご配慮いただきたい。

＜担当部局の所見等＞

【経済観光部】

①企業誘致と情報環境整備について

本市では、若者が定住し活力ある産業を振興するよう、経済再生や雇用創造に力を入れています。特に積極的な誘致活動により、地元産業の発展に寄与する企業進出や市内企業

の新増設の促進に取り組んでいます。これにより、昨年度の市内への企業進出は８件、また市内企業の新増設は１２件を数えています。

また、本年３月に策定した「第３次経済再生・雇用創造戦略」において、４年間での雇用目標数を５，０００人、そのうち企業誘致・新増設では１，８００人を目指すこととしています。

山陰自動車道の整備などで利便性が高まる鳥取西地域における企業誘致についても、各総合支所と協力しながら工場用地の把握にも努めており、企業立地の促進に積極的に取り組み地域経済の活性化に努めてまいります。

（経済観光部長）

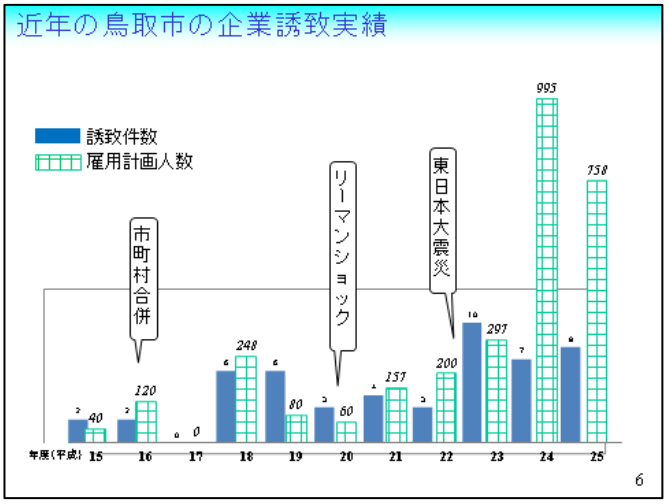
若者定住のために雇用をどんどん創っていくことと、若い方に帰っていただくという政策は、鳥取市としても重要課題ということで積極的に取り組んでいるところです。

今日、鳥取労働局から有効求人倍率が発表されました。これは、職を求めておられる方に対しての企業からの求人数がどれぐらいの割合かというものですが、県東部の７月の有効求人倍率は０．８８倍でした。６月は０．８倍で、昨年の７月時点は０．６９倍と、大分戻りつつあるものの、鳥取県全体では１．０倍、全国的には１．１倍で求職よりも求人が多くなっている状況と比較すると、県東部はまだ非常に厳しい状況にあります。

その中で、特に企業誘致や鳥取の企業による増設などにより雇用を増やしていく取り組みは、最重要課題として取り組んでいるところです。飛行機が５便化しアクセス的に便利になりましたし、関西の企業に対しては自動車道で関西まで近いということを力いっぱいＰＲしています。

企業は今、リスク分散ということを大きく考えています。東北の震災以降、西日本のどこかで拠点をという話を多くいただいていますので、鳥取市は災害が非常に少ない所だと強く打ち出しています。

また、国、県、市の制度を比較すると、鳥取県は企業立地に対する助成制度が全体的に高いです。中でも鳥取市は高く、多くの企業に来ていただくよう積極的に取り組んでいるところです。工業団地の関係でも、河原インターの山手工業団地は２７年度に一部分譲予定ですし、昨年購入した三洋の跡地には岡山の高級和菓子の源吉兆庵さん、ＬＡＳＳＩＣさん、そして鳥取市の土地にではありませんが、ライフオンさんという企業も来られることとなりました。残りあと１か所も埋まるよう取り組んでいるところです。



一覧表をごらんください。グラフの塗りつぶしは誘致件数を表し、格子柄は企業の雇用計画人数を表しています。誘致件数はこれまでずっと少なく、リーマンショックの時には企業に声をかけてもなかなか来ていただけない状況でした。

しかし、東日本大震災以降の企業のリスク分散や、自動車道整備の影響も

あり、平成２３年度は誘致が１０件で雇用計画が２９７人、２４年度は誘致が７件で雇用計画が９９５人、２５年度は誘致が８件で雇用計画７５８人と、非常に伸びてきています。鳥取市内の在来の大きな企業がなくなる中で、鳥取市として非常に危機感を持って取り組んでいるところです。なお、平成２５年度の誘致８件には、源吉兆庵さんの３３０人の雇用計画が含まれていますが、そのうち６割は正規雇用を考えておられます。また、地元企業でもいろいろ増設を計画し、全体的には３１２人増やしたいという話も聞いています。

企業誘致にあたっては、やはりしっかりした企業や優良な企業、また、できるだけ正規雇用率が高い企業、そして地元企業に波及効果がある企業に声をかけています。源吉兆庵さんも、地元の米を使っていくことなどを考えておられるところです。

２４年度には、ＪＣＢさんが西日本に拠点を１か所ということで、若葉台に入って現在操業されていますが、８年後までには４００人の雇用を考えておられます。

今鳥取市では、工業団地を造るかたわらで、優遇制度やセールスポイントをお伝えしながらいろいろな企業にあたっており、今の感触ではある企業が候補の一つに鳥取を考えていただいている状況です。

次に、この西地域はどうかということですが、山陰自動車道ができ今後非常に便利になっていくということで、今は総合支所にも協力してもらいながら空き工場や空き施設などがないか探しています。企業誘致をする場合、企業には１か所ではなく何か所か見ていただくことになります。その中で企業がどこを選ぶか、どこを適地と考えてマッチングしていくかということを考えていくのですが、西地域も今後どんどん便利になる地域ですので、支所または商工会さんと連携して取り組んでいきたいと思います。青谷では候補企業さんも出てこられてはいますが、残念ながら反対に話がなくなった企業もあります。今後も、場所と建物があるかということを前提にしながら、企業へ提案していきたいと考えています。

（地元意見）

以前、私の仕事に関係する企業が誘致され、商品性も非常に気になっていました。営業の方も何回か来られて熱心に商品の販売勧誘をしていただきました。ところが、会社の調子が良くないのかどうか分かりませんが、ある時から来られなくなりました。

誘致企業は、鳥取市から働きかけていく企業、反対に鳥取市に対して働きかけてこられる企業などいろいろあると思いますが、誘致の審査や判断はどのようにしているのでしょうか。

（経済観光部長）

該当の企業は３、４年ほど前に誘致しここで起業化されたのですが、残念ながら一度やめて戻られました。今のような大手の会社への誘致というよりは、とにかく新たなチャレンジで来てくださいという誘致だったので残念であり、また反省もしているところです。

審査内容としては、優良企業であるかどうかなどの企業の様々なデータを確認しています。また、鳥取市だけで誘致に動く案件は少なく実際には鳥取県と合同で動きますので、県と一緒に財務状況などを確認したりしています。起業化の場合は、元の会社の評価をすることになります。大手企業は良いのですが、前回の反省もあり、特に中小企業について

今後はもっと専門の方や銀行、中小企業診断士さんなどにも相談しながら十分審査していくことを考えています。

【総務調整監】

①企業誘致と情報環境整備について

インターネットの光通信は、市街地を中心にＮＴＴ等がサービス提供を行っていますが、鹿野地域へのエリア拡大については、事業採算性の観点から現時点では事業参入を見合わせているように伺っています。

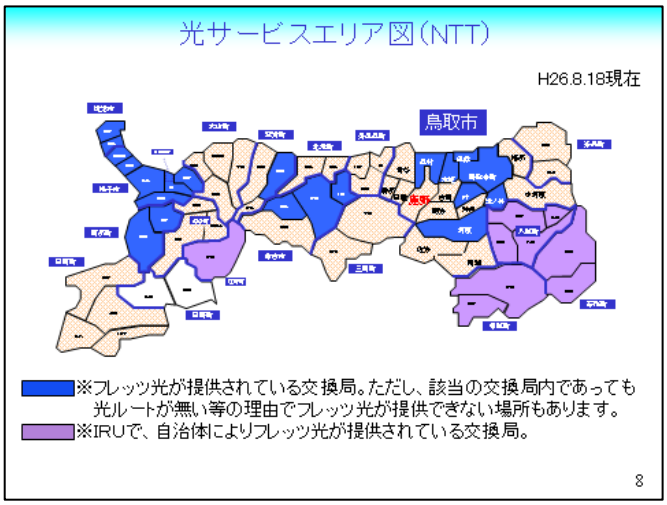
本市では、民間事業者の参入が見込めない従来の状況の改善を目的に、平成１６年度から平成１８年度にかけて新市域にケーブルテレビ網を整備し、現在、鹿野地域においても、このケーブルテレビ網を活用したインターネットサービスをご利用いただいているところです。現時点では、ケーブルインターネットは１２０Ｍｂｐｓの高速サービスも提供されていますので、インターネット利用環境の選択肢としてご利用いただければと思います。

また、ＮＴＴを含む通信各社では、各地区の要望にもとづき順次光サービスの提供エリアを拡大されていることから、鳥取市としてもエリア拡大に向けて要望していきたいと考えています。

なお、利用者の生の声を通信会社へ伝える方法も効果的と考えますので、希望される皆様からも要望していただきますようよろしくお願いします。

（総務調整監）

図の青色で示した部分が、光サービスが提供されているエリアです。気高町の浜に近い方まではきているそうです。ＮＴＴに確認したところ、採算がとれるところから順次整備していきたいという考えのようです。



鳥取市としてもＮＴＴに対して要望していきますが、利用者の皆様からのインターネットや電話でのご要望も受けられるそうです。要望が強いところから順次整備していきたいということでしたので、皆様からも声をたくさん届けていただくようご協力をお願いします。

【教育委員会】

② 校区再編について

校区審議会は、「地域で今後の学校のあり方を検討していく組織づくりを期待し支援するとともに、そこでの議論の結果を受けて再編のあり方を判断する」という方針に基づいて議論が進められています。

６月定例議会でも答弁しましたが、地域で集約された方向性は、校区審議会並びに教育

委員会として最大限に尊重し、その実現に向けて調整していくこととしています。
　鹿野地域の子どもたちのため、また地域のため、１０年、２０年先を見すえた学校のあり方について議論を尽くされますよう、よろしくお願いします。

（教育委員会事務局次長）
　校区審議会は、大きく３つの視点で審議を進めています。１つ目は学校規模です。２つ目は、通学距離や時間、危険性といった通学に関する問題です。３つ目は、地域との関係を含めた適正配置の視点です。
　鹿野町においてもこれまで何度かご説明していますが、校区審議会が一方的に方向性や結論を出していくということはありません。現在、第１２期校区審議会を運営していますが、前期からの申し送り事項として、地域で今後の学校のあり方を検討していく組織づくりを期待し支援するとともに、そこでの議論の結果を受けて校区再編のあり方を判断するという方針に基づいて審議をしておられます。
　鹿野町においては、今年５月に鹿野地域の教育を考える会を立ち上げられ、現在、アンケート調査を進められているということです。非常にありがたく思います。そのアンケートの取りまとめをもとにして、地域で熱心な議論が進んでいくものと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。６月定例市議会でもお答えさせていただきましたが、地域で集約された結果や方向性については、校区審議会並びに教育委員会として最大限に尊重して方向性を決めていきたいと思っています。
　なお、今年５月には福部の教育を考える会から、要望書が出されました。具体的には、幼・小・中１０年の一貫校を目指したいという内容です。運営についてはコミュニティ・スクールの手法で頑張っていきたい、そして教育面では福部の風土、歴史、文化をもとにした教育を考えたい、また、英語教育と理数教育に力を入れていきたいということでした。それを受け、校区審議会に考える会の皆さんをお呼びし、直接思いを語っていただきました。８月２０日には審議会が福部に出かけて現地視察し、施設の状況を確認したり地域の皆様との意見交換会を行いました。校区審議会としては秋頃には答申を出したいと考えておられますが、その際には地域の皆様の思いを最大限尊重した答申が出されるものと思っています。教育委員会もそれに併せ、もっと具体的な詰めを進めていきたいと考えています。この福部町のように、鹿野町からのご要望についてもその内容を最大限に尊重したいと思っています。
　校区審議会では、「学校のカタチ」という動画をつくりました。子ども達にとってどんな学校が良いのか、地域にとってどんな学校が良いのかということを、みんなでいろいろな可能性を探りながら考えていきましょうという内容の、１８分程度の動画です。教育委員会のホームページでぜひご覧ください。

（地元意見）
　私は、鳥取市西商工会の理事をしていて、鹿野地域活性化委員会の委員長もしています。それで、鳥取大学から預かった蓮を活用した「城下町しかのぶらり蓮ウォーク」というイベントの７回目を、今年開催しました。定員２００名で募集して、１８５名の参加者にお集まりいただき、鹿野地区内の蓮を見てもらいながら歩いていただきました。その中で、

鹿野地区には寺がたくさんありますので、寺の前に２人ずつぐらい中学生のボランティアに立ってもらい、寺の案内や由来の説明、そしてコース案内をしてもらいました。ぶっつけ本番で資料を渡して説明してもらったので、少しもたついたような部分もあったようには聞いていますが、中学生が熱心に協力している姿がおおむね好評だとアンケートにも書いてありました。そういう意味で、中学生もいろいろ地元のまちづくりに協力してもらっているので、ぜひ鹿野町にも中学校を残していただいて若い世代を鹿野で育てていくということを考えていただきたいと思います。

（地元意見）

小学校などがなくなった地域もあると思いますが、そうした場合、その地域は基本的に元気がなくなっているのではないかと思います。そのあたりのデータは持っていますか。それをふまえて、もし鹿野地区が絶対残してほしいと言えば残してもらえると考えて良いのでしょうか。

前回の地域づくり懇談会でも校区の問題がいろいろ持ち上がって、耐震の問題などで一緒にならなければいけないといった話も出たのですが、そういう話になれば地域の意見を尊重するという話ではなくなるのではないでしょうか。２年くらい前の青谷と浜村と鹿野の建物の具合も含めた話になってくるのかなと思いますが、その辺はどうでしょうか。

（教育委員会事務局次長）

確かに、青谷中学校と気高中学校、鹿野中学校の３校を１つに統合するという考え方はどうでしょうかという話は、以前教育委員会の方からといいますか、校区審議会としても一つの選択肢として提示させていただきました。その根拠になったのは、耐震性の問題です。鹿野中学校は良かったのですが、青谷中学校と気高中学校の校舎の耐震性が非常に良くないということで、耐震補強をするのか改築をするのか、とにかく手だてを打たなければいけないという大きな問題がありました。さらに、例えば青谷中学校は、現在は１学年２クラスずつぐらいありますが、人口推計から将来予測をすると現状のペースでいけばどんどん子ども達は減っていって、１０年ぐらい経つともう学年１クラスぐらいになることが分かっています。鹿野中学校は既に１学年１クラスぐらいです。気高中学校は比較的高止まりでずっと行くのですが、その２つが教育としてどうかなということと、耐震性の問題もふまえて、３校を統合するのも一つの案ではないかということでお話をさせていただきました。

ただ、当時、学校がなくなるということについては非常に思いがおありになって、旧気高郡で一つ方向性を出すというのはなかなか難しい部分がありました。それと併せて、そんなことを言っている間に、例えば地震が起きて崩れたらどう責任を取るのかというご意見もありました。確かにそのとおりです。地震はいつ何どき起きるか分からないから早くしなければいけない。でもこの議論はなかなか進まないというところで、この表現がまた皆様がちょっと引っかかるところかもしれませんが、校区審議会からは、そういった状況も報告する中で、ひとまず青谷中学校も気高中学校も改築しようという答申をいただきました。それを受け、現在具体的な設計にかかっており、来年度から工事に入っていくという状況です。

統合ということは当分の間はないとは思いますが、校区審議会や教育委員会からこの方法はどうでしょうというやり方は限界があるかと思っています。やはり地域の皆様で考えて方向性を出していただき、残したいという気持ちであるならば残すという方向もあるということです。

しかし、校区審議会で言っているのは、とにかく学校が残れば良いということではなく、学校規模がどんどん小さくなっていく中で、地域の皆様と学校と子ども達が一緒になって、こんな学校をつくっていきたいから残してほしいという話であれば、当然それは尊重しなければいけないだろうということです。寂しいからただ残してほしいとか、学校がないといけないから残してほしいではなく、そういう話と一緒になって出てきた意見については尊重していきたいというところです。絶対残すのかと言われると、私もこの場では言えませんが、思いとしてはそういうことです。

また、学校がなくなると寂れるのではないかというご意見をいただきました。最近では、青谷の小学校が統合しましたし、佐治中学校と用瀬中学校が昨年春に統合し、千代南中学校が開校しましたが、学校がなくなったから寂れるのではなく、逆になくなったから工夫が出てくるのだというお話も聞いています。例えば青谷は５校から１校になりましたが、地域の行事をしようとした時に、以前なら今の１／５の規模の小学校を相手にしていたのが、逆に青谷中の子ども達が関わってくれるような工夫をするなど、どういう風に盛り上げていくかということを考えていく絶好の機会になっているのかなと思います。あって当たり前の学校だったのが、そういう議論をしていく中で、もう少し考えなければいけないとか、こんなことをしたらどうだろうかとか、どんどんアイデアが出てくれば、決して寂れる方向ばかりではなく未来があると信じていますので、ぜひアンケート結果をふまえて、夢のあるお話を聞かせていただけたらと思います。

（地元意見）

鹿野町の人口が４，０００人を切ったと市報に載っていました。人口は、全国的に減少傾向にあることは間違いないと思います。鳥取県でもこれから限界集落がたくさん出てくるでしょうし、これはやむを得ない状況かと思います。ただ、鹿野の小学校と中学校を卒業した一人として、鹿野中学校を残してもらいたいです。私は、小・中一貫校の形で残していただきたいとアンケートに回答しました。吉岡もそういう形で残されているということで、気高、青谷、鹿野が合併するのも一案かと思いますが、せっかく平成１３年に新しい小学校を造って耐震性も優れていますし、全国的にも有数な小学校だと聞いていますので、それを有効活用することがベストだと思います。新しく作るということはそれだけ経費もかかりますし、市の財政も非常に逼迫した状態でしょうから、今の新設された小学校を有効活用すれば小・中一貫校が望ましいと思います。

５　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

企業誘致の場合、いろんな助成とか補助が出ているのではないかと思います。企業誘致とは少し違うのですが、鹿野町には鳥の劇場という、全国に文化や芸術を発信する良い組織があります。企業誘致と同じような観点で、そこを育てていくような援助のようなこと

はできないでしょうか。あちこちから人が集まってきたり、あまり芸術などに縁のない地域で子ども達が芸術や文化に触れる機会をつくっていくためには、鳥の劇場をどう育てていくかということも１つには必要かなと思います。

（企画推進部長）

２年前の地域づくり懇談会では、逆のご意見もありました。鳥の劇場が、県レベルでも地域レベルでも非常に芸術性の高い活動をしておられることは十分認識しており、平成１８年に来られてからは県民、市民の芸術文化の向上に寄与するものということで、県と市で協調しながら支援しているところです。この鹿野の地にあるということで、我々としては西部地域に根差した活動をしていただければと思っていますので、議会でもありましたが、それについて可能な支援はしていきたいと考えています。税金を使うことですので、有効に活動をしていただけるようなことを考えていきたいと思っており、県と市、また議会などで相談しながら、継続して議論を重ねているところです。

（地元意見）

鹿野町には、貴重な文化財的な資料や美術品があるような古い家がたくさんあると思いますが、住んでいる方が高齢になったり家が空き家になっていくと、その後そういった物がどうなるのか心配しています。そこで提案ですが、個人の資格でそういう物を下さいとか買わせてくださいというのはなかなか難しいので、総合支所に専門の方を配置して対象のご家庭に当たってもらえば、うまく保存ができるのではないかと思います。鹿野町には貴重な資料がたくさんあり、限られた職員数では大変だと思います。ある程度ボランティアでお手伝いするということもやぶさかではありませんので、そういう人をぜひ配置してほしいと思います。そして、収集した物は鳥取市ではなく鹿野町に置いてほしいです。

今、鹿野町総合支所の職員は、支所長をはじめ課長や担当者も、蓮の株分けをしたり花を植えるなど、大変良くしてくれています。また、「城山まもりたい」というボランティア団体もあるのですが、これにも職員が積極的に参加してくださっていて非常にありがたいと思っています。その上この仕事をプラスするのは大変なので、鹿野町には若干多めに職員を配置してほしいというのがお願いです。

（深澤市長）

鹿野町に職員を若干多めに配置するということについては、なかなかお答えできにくいのですが、歴史的な資料や美術品が豊富に保存、継承されていることは大変素晴らしいことであると思います。専門職員というのは現時点ではなかなか難しいと思いますが、総合支所の職員や本庁の私達も含めて、そういう認識や理解を持ってかけがえのない歴史、文化を大切にし、しっかり継承していくという意識でやっていきたいと思います。

また、総合支所については合併以降、職員数を少し減らしてきています。これは合併時から大体２割ぐらい減らしていこうという１つの計画、目標のもとに実施しているものです。総合支所の機能や役割を考えると、これ以上減らしていくというのは難しいと考えています。むしろ合併１０年という一つの節目の年でもありますので、この厳しい財政状況の中、どんどん増やすというわけはいきませんが、地域振興あるいは防災の拠点として、

一層の機能の充実等を図っていく方向で検討していきたいと思っています。

（地元意見）

数日前の新聞に日本海の津波のことが載っていました。記事によると、鳥取県でも約４ｍから５ｍの津波が想定されるということでした。地震と同じでいつくるのかは分かりませんが、国土地理院の１／２５，０００の地形図では、鳥取市の市街地の標高は約３ｍから６ｍです。また、湖山池周辺の標高は約２ｍから４ｍ、酒津などの漁港は約２ｍから３ｍです。もしここに４ｍや５ｍの津波が来れば、かなりの大被害が発生することが予想されます。３年前の３月１１日の東北大震災の大津波を見れば分かるとおり、昭和１８年９月１０日の鳥取大地震よりも大きな被害が想定されると思いますので、そのあたりの取り組み方や、ハザードマップ等は作成されつつあるのかということをお聞きしたいです。

（深澤市長）

まず津波についてですが、このたび４ｍから５ｍというシミュレーションが行われていますが、これは沿岸全てにこの高さの津波が押し寄せてくるということではなく、場所によって最高の高さがこの程度になるのではないかという計算だと考えています。以前にも６ｍ強の津波が来るということでしたが、これも全ての沿岸に６ｍを超える津波が押し寄せてくるということではなくて、沿岸の一部地域でそういった波高が観測される可能性があるということでありました。ですから、市街地に押し寄せていくというところまではあまり心配しなくても良いのではないかと思っています。ただ、全国各地では想定外の災害が発生している状況もありますので、やはり備えは必要であると思っています。

また、ハザードマップについては整備していますので、すでにあります。

（地元意見）

２年前の地域づくり懇談会でもお願いしましたが、殿町はカラー舗装の地区要望を２年続けて出しています。黒舗装部分には市の空き家対策等でパン屋さん等を誘致してもらっていて、今ではその通りにたくさんの人が来られます。また、この辺りは鹿野祭で目録を読む一番メインの場所です。この一番メインの場所が、殿町で一番みすぼらしい所になっています。何とかそこをカラー舗装するよう計画してほしいと思います。

（都市整備部長）

本市では、景観法に基づき作成した「鳥取市景観計画」の中で、歴史、文化、自然の特色が象徴的にあらわれ、良好な景観を形成している特に重要な地域を「景観形成重点区域」と指定しています。これは市内に４つあり、そのうちの１つが鹿野城下町です。スクリーンで、鹿野町総合支所が上の方にありますが、その下の着色されている

区域が重点区域です。

道路の美装化については、この地域で平成１６年度から着手し、平成２３年度までに舗装延長２，７６６メートルを美装化しています。なお、ご質問をいただいた舗装の現状を確認したところ、例えば市道殿町線では、通常の黒い舗装で補修した箇所があったり、ひび割れがある箇所などが見受けられました。これをふまえ、長年にわたり地域の皆様が守ってこられた鹿野城下町の街並み環境を今後も保全するため、平成２７年度から５か年計画で始まる国の補助事業を活用して、鹿野町総合支所や地域の皆様と協議しながら、必要な修繕を行っていきたいと考えています。

（地元意見）

鳥取自動車道ができたからといって、喜ぶばかりではだめだと思います。鳥取市全体の人口は増えるかもしれないが、鹿野町の人口は美萩野などに吸い取られてストロー現象により減っていくのではないかと危惧しています。そのあたりをしっかり予測して、学校問題や企業誘致などを進めていただかないといけませんよ。

それと、私は時々本庁に行くことがありますが、朝１０人くらいの職員が平気で遅刻して出勤しています。職員は５分前になったら仕事につける体制でないとだめです。それはやっぱりお粗末です。税金で食っているのだから、しっかり頼みます。ボランティアで行っても挨拶しないということもあります。綱紀粛正ではないですが、そのあたりもしっかりやっていただきたいと思います。

６　市長あいさつ

長時間にわたり本当に熱心なご議論をいただき、ありがとうございました。いろいろなご提言、ご意見をいただきました。すぐにはなかなか対応させていただけないような部分もあったかと思いますが、先ほどの道路の舗装の問題等々も、平成２７年度から有利な財源等を活用して何とかできないかということも、内部で話し合っているところです。

また、鳥取自動車道が開通して、ストロー現象が心配されるというお話もいただきました。こういったことについても、むしろこの高速道路の整備、交通インフラの整備を好機、チャンスとして捉えて活用していくという考え方で、地域の活性化、観光振興、産業の振興にしっかりと取り組んでいきたい、まさに今そういう時期にあると認識しているところです。職員の綱紀についてもお触れになりましたので、そういった実態があるとすれば、きちんとしていきたいと思います。

１時間があっという間に経過しました。これからも皆様と一緒になって地域の課題解決にしっかりと取り組みたい、そして今こそ将来を見すえて、合併１０年を一つの節目として鳥取市のまちづくりにしっかりと取り組みたいと思っているところです。

今日この懇談会にご参加いただいたことに重ねて心から感謝申し上げまして、閉会にあたってのお礼のご挨拶とさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。